

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 14日から15日にかけて、上空に寒気を伴った低気圧が日本海を進む。
- 16日から17日は、発達した低気圧がオホーツク海を北東に進み、高気圧が東シナ海から日本の南に移動する。
- 18日は、高気圧を回る湿った空気が日本付近に流れ込む。

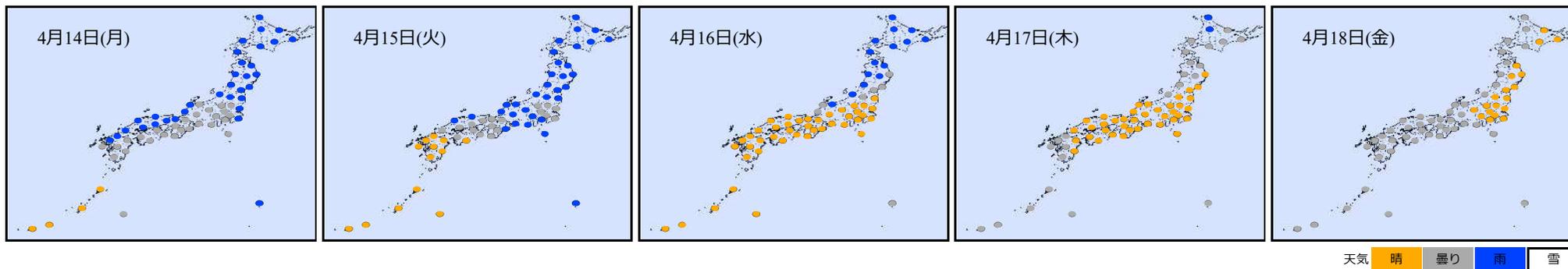
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 15日にかけて、低気圧の影響で北日本から西日本にかけて荒れた天気となる所がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

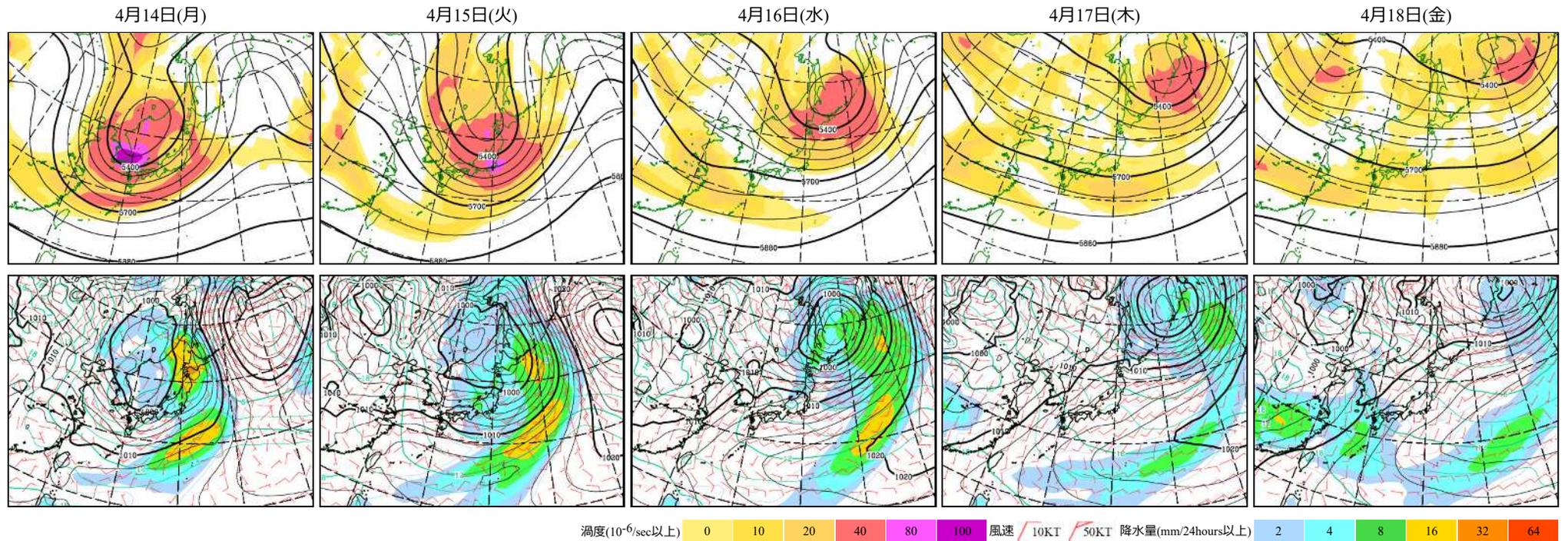
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

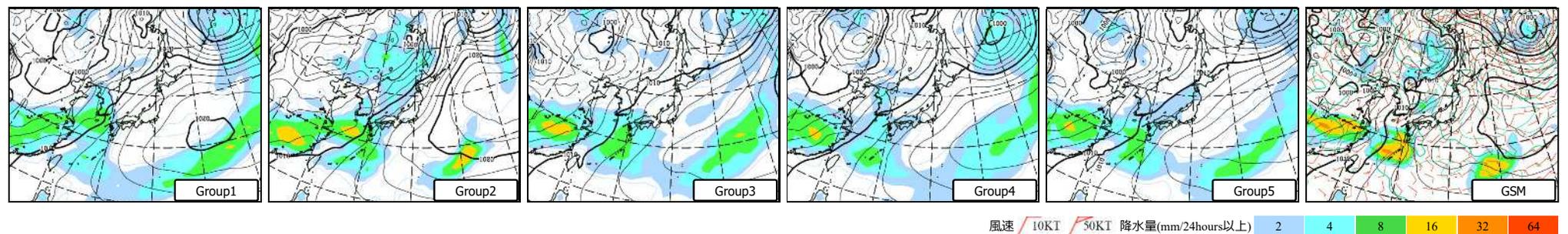


- 北日本から東日本日本海側では、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、14日と15日は雲が広がりやすく、雨の降る所がある。16日から18日は晴れまたは曇りとなる。
- 西日本は、晴れまたは曇りとなるが、14日と15日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、14日から16日は晴れる所が多い。17日と18日は雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月18日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、15日以降、寒冷渦の東進がやや早くなった。地上の気圧配置の予想も、寒冷渦に対応する低気圧の北東進がやや早まっている。
- 15日以降、寒冷渦の北東進が早まる傾向を示すモデルが多い。16日頃まではモデル間の差は小さい。17日以降は5700m付近の流れにモデル間の差が見られる。
- 500hPaの特定高度線は、5400m、5700mともに期間の後半のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。